



東北のかなめ

vol.46 (2019.4)



2019.2月 沖縄米海兵隊実弾射撃訓練見学会で公開された「155ミリリゅう弾砲」
(宮城県王城寺原演習場にて)

【CONTENTS】

- ✓ 特集「米軍実弾射撃訓練の分散・実施」
- ✓ 「ようこそわが街へ」～青森県東北町～
- ✓ トピックス
 - ・ 2つの「日米交流事業」開催
 - ・ 「防衛計画の大綱」
 - ・ 「防衛セミナー(山形市)」開催
- ✓ インフォメーション

「米軍実弾射撃移転訓練」とは？

平成31年2月9日(土)から2月16日(土)の8日間、陸上自衛隊王城寺原演習場(宮城県大和町、大衡村、色麻町)では今回で16回目となる「沖縄県道104号線越え米軍実弾射撃移転訓練」が行われました。

では、なぜ?、いつから?、どうして?、この訓練が行われているのか、以下で簡単に説明します。

【東北防衛局HPより】

沖縄県道104号線越え実弾射撃訓練の分散・実施

沖縄県に所在する米軍施設キャンプ・ハンセンにおいて実施されていた155ミリリゅう弾砲による沖縄県道104号線越え実弾射撃訓練については、実施の都度、県道104号線の交通規制が行われることや訓練の危険性などを理由として、沖縄県民がその取り止めを長年にわたり強く要望していたものです。

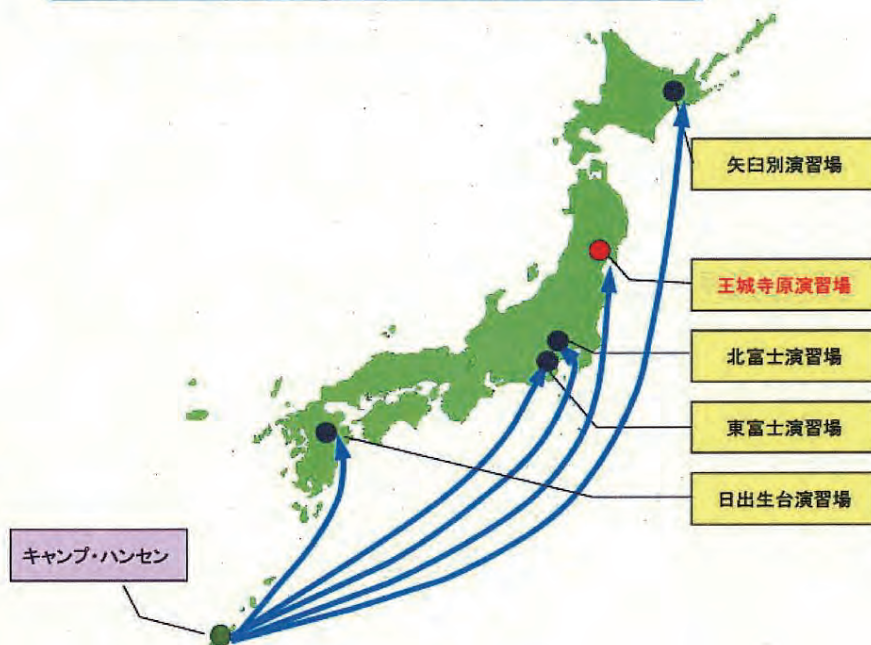
このような要望を踏まえ、沖縄県民の負担を軽減することを目的として、平成9年度からキャンプ・ハンセンでの同訓練を取りやめ、本土5ヶ所の自衛隊演習場において同訓練を分散・実施することとする旨、日米間で合意しました。

本土5ヶ所の自衛隊演習場：
やうすべつ 矢臼別演習場 (北海道)
おうじょうじはら 王城寺原演習場 (宮城県)
 北富士演習場 (山梨県)
 東富士演習場 (静岡県)
ひじゅうだい 日出生台演習場 (大分県)

同訓練の分散・実施については、5ヶ所の演習場の関係自治体から理解を得て、平成9年度から行われています。

このことにより、県道104号線の交通規制が行われなくなり、周辺住民の生活上の支障等がなくなり、沖縄県民の負担は軽減されているところ です。

沖縄県道104号線越え実弾射撃訓練の分散・実施



※ 東北防衛局は、訓練の円滑かつ安全な実施並びに地域住民の不安解消を図るため、米側に対し、最高度の規律確保等を申し入れるとともに、部隊の展開期間中、地元自治体等への情報提供、連絡調整、演習場周辺の巡回などを行っています。

東北防衛局による訓練への支援

今年度行われた訓練の円滑かつ安全な実施や地域の方々の不安解消等のため、平成31年1月31日から2月25日までの間、陸上自衛隊王城寺原演習場内に「東北防衛局米軍実弾射撃移転訓練現地連絡本部」(本部長：藤井真東北防衛局企画部長)を設置しました。



現地連絡本部開所時の看板設置



報道陣の取材を受ける藤井本部長



王城寺原演習場内に設置された現地連絡本部の全景

訓練見学会の開催

平成31年2月12日(火)、米軍実弾射撃移転訓練の見学会が開催され、宮城県、王城寺原演習場所在自治体(大和町、大衡村、色麻町)関係者及び報道関係者など、計約50名が見学しました。



訓練の概要説明の様子



質問に答えるロビンソン中佐



機関銃の展示



射撃のデモンストレーション



射撃指揮所

当日は強風が吹き荒れるあいにくの天候で実際の射撃は行われませんでした。見学会では、指揮官のリチャード H. ロビンソン中佐(第3海兵師団第12海兵連隊第3大隊長)による訓練概要説明があり、引き続き、射撃指揮所及び装備品(155ミリリゅう弾砲、機関銃)を公開しました。

米海兵隊ロビンソン大隊長が地元首長を表敬訪問

平成31年2月14日（木）、訓練指揮官ロビンソン中佐は、地元の理解を得るため、演習場が所在する3町村長（色麻町、大衡村、大和町）を表敬訪問しました。

ロビンソン中佐は、「訓練の受入れと支援に感謝する。冬季の厳しい環境での訓練は大変だが、隊員にとって良い経験、本訓練が日米同盟の強化に繋がることを祈念する」と挨拶、地元3町村長からは、「訓練に当たって安全に十分配慮し、迅速な情報共有を依頼する」との要請がありました。



色麻町長への表敬



大和町長への表敬



大衡村長への表敬

米海兵隊員らが奉仕活動等を実施

平成31年2月20日（水）、王城寺原演習場周辺地域の方々との交流を通じ、一層の日米相互理解促進を図るため、訓練を終えた約20名の米海兵隊員が宮城県大和町にある支援施設「あさいな」を訪問し、奉仕活動を行いました。

当日の奉仕活動は、施設内の畑の整備や窓ふき作業を実施しましたが、畑の整備では、寒さをもろともせず、ほんの20分たらずで準備した4トンもの土を均等にならし、また、窓ふき作業では、高いところの窓ふきも軽々とこなしていました。

奉仕活動後の交流会では、海兵隊員がダンスを披露し途中から施設利用者も一緒に踊るなどして大いに盛り上がりました。引き続き、輪投げや風船バレーなどのゲームを楽しみ、最後に、施設からのお礼としてスパゲッティ・焼き鳥・おにぎりが振る舞われ、カラオケでは全員で「ヤングマン(Y.M.C.A)」を歌ったり、大盛況のうちに交流会は終了しました。

海兵隊員らが施設を離れる際、日米双方が別れを惜しみ、施設の方々は海兵隊員らの姿が見えなくなるまで手を振り続けていたのが印象的でした。



畑整備の様子



窓ふきの様子



別れを惜しむ施設の方々

また、これとは別に、2月18日（月）にも約40名の米海兵隊員らが宮城県大衡村にある「おおひら万葉こども園」を訪問しており、こども園の園児たちとお遊戯や綱引きやかかけっこをして、楽しく交流しました。

青森県・東北町

小川原湖に伝わる姉妹の伝説



東北町HP



八甲田の恵みを仰ぐ玉代姫（左）と湖の安全と幸せを祈る勝世姫（右）



黒いダイヤ「大和しじみ」

東北町は青森県の東部、上北地方のほぼ中央部にあって、県東部の空の玄関である三沢空港や東北新幹線七戸十和田駅、高規格道路の上北道路など、首都圏をはじめ国内各地を結ぶ交通網が整備されている恵まれた立地条件にあります。3月16日には高規格道路の上北道路と接続する上北天間林道路も開通し、更なる産業振興や住民の利便性向上が期待されています。

そして本町は、県下最大、全国でも11番目の面積を誇る汽水湖・小川原湖を有しています。小川原湖は「青森県上北郡東北町大字大浦字小川原湖191番地」と住所を持つ全国的にも珍しい湖であり、地元では宝沼（たからぬま）と呼ばれ、日本一の漁獲量を誇るワカサギやシラウオを始め、天然ウナギ、近年香港に輸出を始めた上海ガニの兄弟種・モクズガニなど魚介類の宝庫です。その他、観光、学術研究、自然生態系などにおいても、小川原湖が与える有形、無形の恩恵を受けています。

実は地元以外ではあまり知られていないのが、「小川原湖伝説」と呼ばれる優しき姉妹の物語。ここでは伝説の一部にふれたいと思います。

（今から1300年ほど昔、京の都に橘中納言道忠公という貴人がおり、2人の姉妹と幸せに暮らしていました。ある日、屋敷が賊に襲われ、重臣を失った道忠は世の無情をはかなみ、都を離れひっそりと姿を消し、やがて小川原湖のほとりに庵を構えました。京に残された玉代姫、勝世姫姉妹は新堂織部と駒沢左京之進を従え、父の行方を探す旅に出ます。諸国を巡りようやくこの地にたどり着いたのですが、すでに父が亡くなっていることを知り、悲しみのあまり姉妹は湖に身を沈めてしまいました。以来、玉代姫が身を沈めた沼を『姉沼』、勝世姫が身を沈めた沼を『妹沼』（現在の小川原湖）と呼ぶようになりました。その後、左京之進は玉代姫の霊と沼を守るため『姉沼』に、そして織部は勝世姫の仰を受けて沼の奉公として『妹沼』にそれぞれとどまり、姉妹は父のいる沼崎へ通い三尊仏となりました。）

現在、小川原湖のほとりには、仲のいい姉妹を象徴するかののように2人の像が寄り添っており、姉妹の悲しくも優しい思いを伝えています。
東北町、そして小川原湖を訪れた際は、優しき姉妹に思いを馳せながら、観光や小川原湖の幸を楽しんでみてはいかがでしょうか。

日米交流事業～「第7回 MISAWA アイスホッケー 2019」の開催

平成31年1月26日（土）、三沢市内及び米軍三沢基地内の小学生による日米交流事業「第7回MISAWAアイスホッケー2019」を三沢アイスアリーナで開催し、日米合わせて約140名の子供たちが熱戦を繰り広げました。「アイスホッケー」とは、三沢市特産の「にんにく」「長芋」「ホッキ貝」をモチーフにした用具を使い試合をする「アイスホッケー」。参加した小学生たちの元気いっぱいの声が会場に響いていました。



にんにく形ヘルメットと長芋形スティック



参加者全員で集合写真



熱戦を繰り広げる小学生たち！



来賓挨拶をする種市三沢市長



ストルーヴィー三沢基地司令官の来賓挨拶



伊藤東北局長の主催者挨拶

日米交流事業～「第7回 ひな祭り in Tohoku Town 2019」の開催

平成31年3月2日（土）、青森県東北町の小川原湖交流センター「宝湖館」において、東北町内及び米軍三沢基地内の親子約60名が参加した「ひな祭り in Tohoku Town 2019」を開催しました。



参加者全員で集合写真



ボトルランプ作製の様子



「手まり寿司」の調理風景



お楽しみの昼食会！



餅つきにもチャレンジ！



東北町ゆるキャラ「しじみーる」も登場

これは日本の春の伝統行事である「ひな祭り」を通して日本文化に親んでもらうもので、当日は、オリジナルボトルランプの作製や東北町特産の食材を使った「手まり寿司」を調理しみんなで美味しくいただくなど、参加した日米の親子は大いに楽しんでいました。

第38回「防衛セミナーin山形」の開催(山形県山形市)

平成31年3月7日(木)、山形県山形市の「山形国際交流プラザ(山形ビッグウイング)」において、第38回「防衛セミナー」を開催しました。

今回は、地元山形県出身の内閣官房国家安全保障参与 黒江哲郎氏(元防衛事務次官)を、ほか陸上自衛隊第6師団副師団長兼神町駐屯地司令の滝澤博文陸将補らを講師に迎え、「わが国を取り巻く安全保障環境」などについての講演を行いました。

当日は、約230名という大勢の方々が来場し、両氏の講演に対して真剣に耳を傾けていました。



(左より)伊藤局長、滝澤将補、黒江参与



講演する黒江参与



講演する滝澤将補



佐藤孝弘山形市長の来賓挨拶



主催者挨拶する伊藤東北局長



230名を越える参加者

「防衛計画の大綱」について

平成30年12月18日に策定した新たな「防衛計画の大綱」及び「中期防衛力整備計画」について、平成31年2月4日から3月20日にかけて、東北6県知事等に対し伊藤茂樹東北防衛局長が説明を実施しました。



佐野副知事(H31.2.4)



鈴木副知事(H31.3.1)



三村知事(H31.3.5)



吉村知事(H31.3.8)



達増知事(H31.3.14)



堀井副知事(H31.3.20)

「防衛計画の大綱」(防衛大綱)とは、国家安全保障戦略を踏まえ、我が国の防衛の基本方針、防衛力の役割、自衛隊の具体的な体制の目標水準等を示すもので、「中期防衛力整備計画」は、防衛大綱に示された防衛力の目標水準等を踏まえ、今後の5年間を対象として策定する防衛力整備の計画です。

朝雲新聞「朝雲賞・優秀掲載賞」を東北防衛局が3年連続受賞

朝雲新聞社が主催する、平成30年1年間（1月～12月）に朝雲新聞への投稿・掲載数が最も多かったとして表彰する「朝雲賞」の地方防衛局部門において、東北防衛局が「優秀掲載賞」を受賞しました。

今回は、同点により九州防衛局との同時受賞でしたが、東北防衛局は当部門が新設された平成28年より3年連続で本賞を受賞しており、担当した同局報道官の喜びの声も同紙に紹介されました。



「3年連続の『朝雲賞』受賞に伊藤局長以下、大変喜んでおり、私自身もとてもうれしく、誇りに思います。広報業務には歴代局長、歴代報道官をはじめ、職員一丸となつて力を入れて取り組んでおり、こうした努力の積み重ねが連続受賞につながったものだと思っております。米軍と自衛隊と地域住民をつなぐ当局の動きを歴史に刻み、後世に伝えるとともに、国民の皆さまに防衛省・自衛隊を正しく理解していただくためにも、引き続き情報発信に励んでまいります」

職員一丸で努力、3年連続が誇り

東北防衛局・白澤豊報道官



「朝雲賞」
東北、九州の2局が受賞
報道官から喜びの声

【平.31.3.14付け「朝雲新聞」提供】

説明：「朝雲新聞」とは、昭和27年6月に誕生し、警察予備隊を経て防衛庁、防衛省と共にその歴史を刻んできた新聞で、その主たる購読者は、自衛隊員、OB、防衛関係諸団体、地方自治体、安全保障研究者、各国大使館など。

掲載内容は、自衛隊の動き（各種訓練、国際貢献活動、災害派遣等）や安全保障を含めた防衛行政全般に係るその時々多彩な防衛関連情報を発信する、毎週木曜日発行の防衛・安全保障専門紙である。

人事異動（幹部紹介）（平成31年4月1日付け）

会計監査官

榊原 岳

【前職：自衛隊岐阜地方協力本部副本部長】

三沢防衛事務所長

古川 和久

【前職：東北防衛局総務部会計課長】

東北の主な自衛隊広報行事

【平成31年7月まで】

事前申込み、整理券等が必要なイベントもありますので、お問い合わせください。

開催日	イベント名	開催場所	問い合わせ先
6月 8日(土) 9日(日)	第9師団創立57周年及び 青森駐屯地創立68周年記念行事	青森駐屯地 等 (青森県青森市)	第9師団司令部広報室 017-781-0161(6054、6055、6056)
6月16日(日)	岩手駐屯地創立62周年記念行事	岩手駐屯地 (岩手県滝沢市)	岩手駐屯地広報班 019-688-4311(255、256)
7月 6日(土)	マリンフェスタin大湊	大湊地方総監部 (青森県むつ市)	大湊地方総監部総務課 0175-24-1111(2304)
7月19日(金)	仙台駐屯地夏まつり	仙台駐屯地 (宮城県仙台市)	仙台駐屯地司令職務室 022-231-1111(3861、3662)

